

# 船舶事故調査報告書

令和元年 12 月 18 日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	ウェイクボーダー負傷
発生日時	令和元年 7 月 14 日 13 時 32 分ごろ
発生場所	香川県高松市屋島東方沖 庵治港一文字防波堤北灯台から真方位 205° 1.1 海里付近 (概位 北緯 34° 22.1′ 東経 134° 06.8′)
事故の概要	プレジャーボート A G-21 は、ウェイクボーダーにプロペラ翼が接触し、ウェイクボーダーが負傷した。
事故調査の経過	令和元年 8 月 22 日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーボート A G-21、1.5 トン
船舶番号、船舶所有者等	280-40873 香川、香川マリン株式会社
乗組員等に関する情報	船長、二級小型
負傷者	軽傷 1 人（ウェイクボーダー）
損傷	なし
気象・海象	気象：天気 曇り、風 なし、視界 良好 海象：海上 平穏
事故の経過	<p>本船は、船長が 1 人で乗り組み、持ち手の付いたロープを取り付け、同持ち手を握ったウェイクボーダーをけん引していたところ、ウェイクボーダーが落水した。</p> <p>本船は、船長が、ウェイクボーダーを収容する目的で主機のクラッチを前進に入れてウェイクボーダーに接近した際、前進行きあしを止めようと主機を後進としたのちクラッチレバーを中立位置としたつもりが、僅かに後進位置となっており、船尾付近にいたウェイクボーダーに回転しているプロペラ翼が接触し、ウェイクボーダーが左足に切創を負った。</p>
分析	本船は、ウェイクボーダーを収容する際、船長が、クラッチレバーを中立位置としたつもりが、僅かに後進位置となっており、プロペラ翼が回転した状態でウェイクボーダーに接近したことから、ウェイクボーダーにプロペラ翼が接触し、ウェイクボーダーが左足を負傷したものと考えられる。
原因	本事故は、本船がウェイクボーダーを収容する際、船長が、クラッチレバーを中立位置としたつもりが、僅かに後進位置となっており、プロペラ翼が回転した状態でウェイクボーダーに接近したため、ウェイクボーダーにプロペラ翼が接触したことにより発生したものと考えられる。

<b>再発防止策</b>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ ウェイクボーダーを収容する際は、プロペラ翼の回転が確実に停止したことを確認すること。</li></ul>
--------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------